

# 進路だより

発行：平成26年1月16日

## 1 進研模試（総合学力記述模試）について

1月24日(金)25(土)に5年生対象に進研模試（総合学力記述模試）を実施します。

### (1) 今回の模試の目的

今回の模試をきっかけに「受験生」になろう！

#### ①センター試験のジャスト1年前にあたる模擬試験！

ほとんどの国公立大ではセンター試験で5教科が課されます。そのため、センター試験対策では5教科の学力をバランスよく身につける必要があります。ちょうど1年前にあたる今回の模試で5教科の総合学力を測って、今後の受験勉強に生かしましょう。

#### ②補強すべき学習事項を確認しよう！

今回の模試は、5年生までに学習した範囲の重要事項が理解できているかを問う総まとめのテストです。手ごたえや結果から、身につけていない分野・重要事項を確認し、模試受験後や春休みにしっかり補強しましょう。

#### ③志望校について考える絶好のチャンス！

受験勉強とは、「志望校に合格するための勉強」。今後の受験勉強をより効率的に進めるためにも、今回の模試を機に、できるだけ志望校を絞り込んでおくことを心がけましょう。

### (2) これが大学入試センター試験だ

国公立大一般入試（一部を除く）では、各大学・学部が実施する個別学力検査の前に必ず受けなければなりません。また、近年では私立大・短大でもセンター試験を利用して入試を実施する学校が数多くあります。そのため、今や進学をめざす受験生にとって、受験するのが当たり前とも言える存在となっています。

## 日程・出題科目 志望校に必要な入試科目を選んで受験する。

センター試験は例年1月中旬～下旬に実施されます。5年生が受験する2015年は、1月17日(土)、18日(日)に実施される予定です。  
センター試験では、各自志望校の入試に必要な科目を選んで受験します。志望校の入試科目によっては、休憩時間以外の空き時間なしで試験を受け続ける場合もあるので、集中力の維持も重要なポイントです。

### ■2015年度大学入試センター試験出題教科・科目

教科	出題科目	試験時間(配点)	科目選択の方法
国語	『国語』	80分(200点)	
地理歴史・公民	『世界史A』『世界史B』『日本史A』『日本史B』『地理A』『地理B』『現代社会』『倫理』『政治・経済』『倫理、政治・経済』	1科目選択 60分(100点) 2科目選択 130分(うち解答時間120分) (200点)	左記出題科目の10科目のうちから最大2科目を選択し、解答する。ただし、同一名称を含む科目の組合せで2科目を選択することはできない。なお、受験する科目数は出願時に申し出ること。
数学	① 『数学I』『数学I・A』	60分(100点)	左記出題科目の2科目のうちから1科目を選択し、解答する。
	② 『数学II』『数学II・B』『工業数理基礎』『簿記・会計』『情報関係基礎』	60分(100点)	左記出題科目の5科目のうちから1科目を選択し、解答する。
理科	① 『物理基礎』『化学基礎』『生物基礎』『地学基礎』	2科目選択 60分(100点)	左記出題科目の8科目のうちから下記のいずれかの選択方法により科目を選択し、解答する。
	② 『物理』『化学』『生物』『地学』	1科目選択 60分(100点) 2科目選択 130分(うち解答時間120分) (200点)	A 理科①から2科目 B 理科②から1科目 C 理科①から2科目及び理科②から1科目 D 理科②から2科目 なお、受験科目の選択方法は出願時に申し出ること。
外国語	『英語』『ドイツ語』『フランス語』『中国語』『韓国語』	【筆記】80分(200点) 【リスニング】 (『英語』のみ)60分 (うち解答時間30分) (50点)	左記出題科目の5科目のうちから1科目を選択し、解答する。

(注)リスニングは、音声問題をうい30分間で解答を行うが、解答開始前に受験者に配付したICプレーヤーの作動確認・音量調節を受験者本人が行うための必要な時間を加えた時間を試験時間として定める。

(注)地理歴史・公民の「科目選択の方法」欄中の「同一名称を含む科目の組合せ」とは、「世界史A」と「世界史B」、「日本史A」と「日本史B」、「地理A」と「地理B」、「倫理」と「倫理、政治・経済」及び「政治・経済」と「倫理、政治・経済」の組合せをいう。

《出典》独立行政法人 大学入試センター発表資料

## 出題範囲

後期課程3年間の履修範囲すべてから基礎事項を中心に出题される。

センター試験の問題は、後期課程の全履修範囲のうち、4・5年で学習した内容が全体の4分の3以上を占めます。また、入試問題とはいえ基礎の定着度を測るテストなので、問題の中心は基礎事項。つまり、5年までの基本的な学習内容がしっかり押さえられていれば十分対応できます。だから、今回の模試で見つかった2年間のヌケ・モレは必ず埋めておきましょう。

## 受験科目数

ほとんどの国立大で5教科7科目\*以上の受験が必要。各教科で偏りのない知識が問われる。

\*理科の基礎を付した科目を2科目受験する場合も含まれます。

2014年度大学入試センター試験で5教科7科目\*以上を課す国立大は、全体の約95%。国立大進学を視野に入れるなら、7科目\*受験はほぼ前提条件になると考えて問題ないでしょう。苦手科目の克服がこれからの課題です。

### ■5教科7科目\*以上を課す大学・学部数の推移

区分	2014年度		2013年度		2012年度	
	大学	学部	大学	学部	大学	学部
対象	78 (95.1%)	343 (89.6%)	78 (95.1%)	342 (89.8%)	78 (95.1%)	339 (89.0%)
国立大全体数	82	383	82	381	82	381

文部科学省発表資料より / ( ) は、全体数に対する割合。

## ■志望校記入シート

今回受験カードに記入する志望校を事前に決めておきましょう。

第1志望校	大学	第3志望校	大学
	学部		学部
	学科		学科
第2志望校	大学	第4志望校	大学
	学部		学部
	学科		学科

## (3) 合格した先輩たちが語る！

### 次の学年を迎えるときに理解していないところがないように

国公立大 工学系統 A先輩

4・5年生のうちは適度に勉強していればOKだと考える人も多いけれど、それは大きな間違いです。今までの勉強を振り返ってわからないところがないか、何度も見直しましょう。そもそも予・復習は苦手を作らないためのものです。得意科目は先生に次の学年の勉強をコツリ教わり、苦手科目はわからない箇所をきっちり把握して1つずつ消化する。そして、次の学年を迎えるときに、それまでの単元で理解不可能なものがないようにするのが基本です。これができていれば、6年生は暗記のみで済みます。

### 問題集1冊分が出題範囲。定期テスト対策が入試で役立った

国公立大 経済・経営・商学系統 C先輩

5年生の冬休み、学校から膨大な量の課題が出されました。しかし私は、意地でも全部やりきってやる！と思い、ひたすら勉強しました。その課題は5年生までの総復習といった内容だったので、そのおかげで受験勉強の土台ができました。また春休みには、春休み明けテスト範囲が問題集すべてという生物の勉強を集中して行い、そのおかげで6年生になっても生物で困ることはありませんでした。今思うと、この休暇期間が志望校合格に大きく影響したのだと思います。

## 「6年直前 春休みの過ごし方」

### 春休みは何か1つやることを決めてそれに専心しよう

国公立大 経済・経営・商学系統 B先輩

春休みは部活動など忙しいこともあるので、あれもこれもと欲張っている余裕はありません。何か1つやることを決めて、それに専心すればいいと思います。私は単語帳を1冊使い、毎日ノルマを決めて英単語を覚えていきました。その際に、最低3回は見直すように予定を組みました。その他にも、苦手教科の教科書の例題や基本問題を解き直しました。基本事項を一通り復習したことで、6年生になってから受けた模試(特にマーク模試)で高得点が取れました。

### 5年の春に、化学を復習しておこう

私立大 薬学系統 D先輩

4年生の段階で化学に苦手意識がなくとも、半年間のブランクは入試においては少々痛いです。5年生の春休みにざっとでもよいので総復習をしておくと、化学が得点源になります。6年生で習った有機、無機はほぼ理論の応用ですし、理論化学の範囲も考え方さえ理解できれば十分でした。高分子は有機の応用で、ほとんど暗記ですが、問題数を多くこなせば自然と頭に残ります。地道に頑張れば、希望も見えてくるので、あきらめずに頑張らしましょう。